

地域調査法 FII

地域調査法 FII

2単位 2年(後期)

樫田 美雄・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 後期には、前期に引き続いて現代における地域福祉の重要問題である認知症に関わって生じる問題を調査するための理論と方法を、とりわけ質的調査に関係させた形で身につける。

【授業概要】 この講義では、前期に具体的な調査方法を一通り経験してもらったことをふまえて、ワークスペース研究や自成的秩序研究につらなる調査の代表的なものをいくつか取り上げ、その問題設定と具体的な調査方法との関連をみていくこととする。その際、以下の2つを中心に講義と購読により授業を進めていく。①秩序を意識に還元しない立場の可能性を考える。②エスノグラフィ的な知識を組み込んだ会話分析の方法としてのビデオエスノグラフィという考え方を紹介し、この方法を生かすためにインタビュー等が重要である事を学んでもらう。古典的な研究を新しい目で講読することで、その面白みと実際の方法論について学んでいく。

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 地域調査法 FI-II では調査の理論と技法を、地域調査実習 FI-II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。授業は1年間で授業全体の計画を実行するため、なるべく通年で受講すること。

【到達目標】 [目標]

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 秩序へのアプローチ (1):エスノグラフィ的手法
3. 秩序へのアプローチ (2):焦点の定まらない集まりへのアプローチ
4. 秩序へのアプローチ (3):ワークスペース研究という方法
5. 秩序へのアプローチ (4):歴史的現象に対する研究の可能性
6. 秩序へのアプローチ (5):組織科学とエスノメソドロジー・会話分析
7. 社会秩序研究と福祉的問題の関係に関する考察
8. 医療・福祉へのアプローチ (1):エスノグラフィ的アプローチ
9. 医療・福祉へのアプローチ (2):サドナウのアプローチ
10. 医療・福祉へのアプローチ (3):D. グードのアプローチ
11. 医療・福祉へのアプローチ (4):ダグラス・メイナードのアプローチ
12. 医療・福祉へのアプローチ (5):日本の諸研究

13. 医療・福祉へのアプローチ (6):ビデオエスノグラフィという考え方

14. 認知症と家族・介護者に関する従来の社会学的研究

【成績評価】 出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 教材については、基本的に必要な部分をコピーして輪読する。

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219185>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟3階プロジェクト研究室1に常駐。1号館南棟1階1S19 ほとときどき。 , 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

Target 後期には、前期に引き続いて現代における地域福祉の重要問題である認知症に関わって生じる問題を調査するための理論と方法を、とりわけ質的調査に関係させた形で身につける。

Outline この講義では、前期に具体的な調査方法を一通り経験してもらったことをふまえて、ワークスペース研究や自成的秩序研究につらなる調査の代表的なものをいくつか取り上げ、その問題設定と具体的な調査方法との関連をみていくこととする。その際、以下の2つを中心に講義と購読により授業を進めていく。①秩序を意識に還元しない立場の可能性を考える。②エスノグラフィ的な知識を組み込んだ会話分析の方法としてのビデオエスノグラフィという考え方を紹介し、この方法を生かすためにインタビュー等が重要である事を学んでもらう。古典的な研究を新しい目で講読することで、その面白みと実際の方法論について学んでいく。

Keyword [キーワード]

Fundamental Lecture [先行科目]

Relational Lecture [関連科目]

Notice 地域調査法 FI-II では調査の理論と技法を、地域調査実習 FI-II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。授業は1年間で授業全体の計画を実行するため、なるべく通年で受講すること。

Goal [目標]

Schedule

1. オリエンテーション
2. 秩序へのアプローチ (1):エスノグラフィ的的手法
3. 秩序へのアプローチ (2):焦点の定まらない集まりへのアプローチ
4. 秩序へのアプローチ (3):ワークスペース研究という方法
5. 秩序へのアプローチ (4):歴史的現象に対する研究の可能性
6. 秩序へのアプローチ (5):組織科学とエスノメソドロジー・会話分析
7. 社会秩序研究と福祉的問題の関係に関する考察
8. 医療・福祉へのアプローチ (1):エスノグラフィ的アプローチ
9. 医療・福祉へのアプローチ (2):サドナウのアプローチ
10. 医療・福祉へのアプローチ (3):D. グードのアプローチ
11. 医療・福祉へのアプローチ (4):ダグラス・メイナードのアプローチ
12. 医療・福祉へのアプローチ (5):日本の諸研究

13. 医療・福祉へのアプローチ (6):ビデオエスノグラフィという考え方

14. 認知症と家族・介護者に関する従来の社会学的研究

Evaluation Criteria 出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

Re-evaluation 行わない

Textbook 教材については、基本的に必要な部分をコピーして輪読する。

Reference [参考資料]

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219185>

Contact

⇒ Kashida (SVBL3F_1, +81-88-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (Office Hour: 火曜日_14:00 から 15:00)